

## 作業療法の視点を入れた、実践的な取組み

### — 日常生活の中で活かしつつ、変えていくには —

関西医科大学附属病院分教室

#### 1 はじめに

関西医科大学附属病院分教室では、関西医科大学リハビリテーション学部の先生から、定期的に病気や怪我の児童生徒への学習面を含めたアプローチに関する具体的なアドバイスをいただいている。その中でも、頭蓋内胚細胞腫瘍で入院中のNくんについての取組みを紹介する。

Nくんは、今年5月に入院し、間もなく腫瘍摘出の開頭手術を受け、抗がん治療の投薬をしながら分教室に通っている。まず、リハビリの先生より、認知評価システムDN-CAS（前頭葉の様子をみる、判断・注意・処理能力）と、知能検査WISC-IVの2つの検査結果に基づいてアドバイスをいただいた。

#### 2 Nくんの特性

検査結果から、Nくんの特性について以下のことが分かった。

- (1) 知能は平均より少し高いが、処理に時間がかかる。（制限時間内に速度や量をこなすのが苦手）
- (2) 同時処理が苦手。（授業を聴きながらメモをとる。作業をしながら、話すなどが苦手）
- (3) プランニングや言語表現が苦手。短期記憶やワーキングメモリーが苦手。



#### 3 課題の方向性

検査結果とアドバイスを受けて、以下の取組みを行った。

- (1) 予め要点を先に伝えて前振りし、要点に意識を集中して取り組めるようにする。  
（例：地理の授業 事前に要点を伝えて覚えた後、すぐに目隠し問題で確認する）

**緯線**・・・同じ緯度を結んだ線。

特に、緯度0度の線を**赤道**という。



※要点に意識を向ける

・・・同じ緯度を結んだ線。

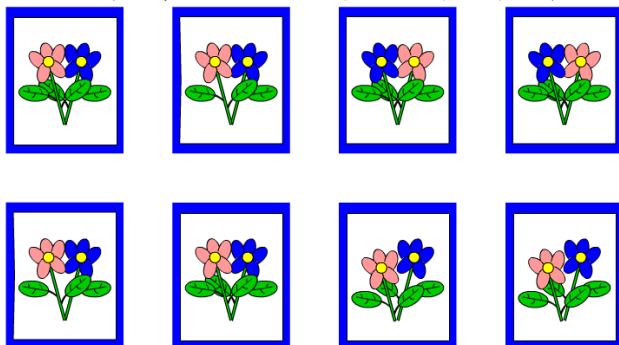
特に、緯度0度の線を**赤道**という。



※すぐ目隠し問題で確認、定着を図る

- (2) 自らの判断で選ぶ。時間内で優先順位をつける。

（限られた時間内で、同じ花のカードを探すのに、効果的な識別方法を考える 例：葉の枚数や花びらの色による識別、不要なカードを消すことによる時間削減など、手がかりを探し、ポイントを絞って識別する）



簡単に見分ける方法は？


## II 校内研修

(3) 時間内に、自分で計画してみる。短期記憶の課題を選択してみる。

(N君が選んだ記憶課題 必要な情報だけを抽出して覚える。3の位置だけを覚える練習)

※図 A 参照

図 A 短期記憶の課題

2	9	3	5	3	10秒後に数字が消える						
3	5	2	8	1							
4	7	9	3	2			3の位置はどこだった？				
1	3	7	2	4							



(4) 自分で話題を考えてみる。言語活動で、自分で伝える機会を作る。話題のきっかけとなる言語活動ルーレットを通して、アウトプットしていく支援を行う。(例：ルーレットで止まったお題の話の話をきっかけに、会話を発展させていく) ※図 B 参照

図 B 言語活動ルーレット

ほしい物	自分のいい所	好きな季節	好きなスポーツ
好きな花	なにになくなるかな?		好きな歌
好きな勉強			自分の宝物
好きなテレビ番組	好きな色	好きな動物	好きな食べ物



### 4 さいごに (日常生活の中で活かしつつ、変えていくには)

上記(1)～(4)の意識、判断、計画、選択する課題の取組みをしつつ、Nくんの特性から日常生活の中で普遍化できる取組みを考えた。定期テストや確認テストなどの場面で、この取組みが実用化できないかを相談・連携し、スモールスタートの作戦を立てた。

(1) 前から順番に試験問題を解く癖があり、得点できる問題までも時間不足で未記入にしてしまう

⇒問題の全体像を1度見渡す、得意分野を優先する。

(2) 問題に悩むと、そこでしばらく止まってしまう

⇒悩んだら止まらずにすぐ次の問題へ進み、最後に見直す。

(3) 記号や○×問題までも未記入の答案で提出してしまう

⇒記号や○×問題は分からなくても空白にはせず、選択肢の消去法や対比で答えを導き出す。記入できる回答欄を空白にしない。

自ら時間不足の原因を考え、言葉にして書き出すことで、「あとプラス 5～10 点は取得できた。もったいないことをした。」という悔いの言葉で、自覚することができた。そこで、『どうすればもったいないを無くせるのか』を、念頭に具体策に取り組んだ。

その後、試験問題の全体量を見てから解く、問題を解く際の制限時間と時間配分への配慮、記号や○×問題は、空白を必ず埋めるなど、着実に自らの意識は芽生えている。

何より重要なのは、日常の中で【優先順位を考えながら、自分で課題を意識し、解決に繋げる力】を研ぎ澄ませることである。頭の中で理解するだけでなく、行動に移すことが大切だからである。

今後も日常の中で【自分で意識、判断、計画、選択する力】を支援していきたいと考えている。

